

陳 情	受 理 番 号	113	受 理 年 月 日	令和元年 11 月 13 日	付 託 委員会	厚生経済
件 名	新那覇市立病院（仮称）建設工事の発注方法について（陳情）					

新那覇市立病院(仮称)建設工事の発注方法について（陳情）

平素より、那覇市民の代表機関として市民福祉の向上と市政の発展にご尽力を賜わり、衷心より深く敬意を表します。

さて、那覇市立病院は、昭和 55 年 5 月に開設され、39 年余に亘って那覇市の基幹病院として重要な役割を担ってこられました。施設設備の老朽化や耐震基準の課題、また今後の医療環境への対応のため建替事業が進められることとなりました。

病院建替えにおける概算事業費は約 260 億円程度と試算されており、その建築資金等については、設置者である那覇市が起債により国から借入れ、償還については 50%を負担すると聞いております。

県内設備工事業界としても、代表的建設工事に携わる機会として高い関心と期待を寄せているところでございます。

その一方で、去る 6 月に策定された「新病院建設基本計画」では、建設工事発注方法として、“工事一括発注方式が望ましい”との検討結果が示されたことに、設備業界では大きな衝撃を受けております。

現在、「公共工事入札・契約適正化法」が施行され、これに規定する国及び地方公共団体、特殊法人等が守るべきガイドラインにおいて、分離発注に努めることとされており、国・県はもとより、那覇市においても設備工事の分離発注がなされているところです。

この度の工事発注方法については、事業主体である那覇市立病院において様々な観点から検討されてきたと存じますが、基幹病院という性質上、設備の安全性、信頼性、効率性は、一般の建築物とは比較にならない高い機能が求められます。

また、設備工事は、それ自体独立した高度専門分野を形成し、県内設備工事業者も高い施工能力とこれまで蓄積したノウハウを有し、当該工事につきましても、いささかの不安もないと自負しております。仮に一括発注となりますと、地元企業は二次下請以下となることから、私ども設備業者へのしわ寄せ（過度の低価格の押しつけ、後工程への工期の圧力）が生じる恐れがあり、品質確保について大きな不安材料となります。

設備工事を分離発注するメリットとしては、

1. 施主の設備へのニーズが施工に直接反映されること。
2. イニシャルコストの安さではなく、ライフサイクルコストの低減に貢献すること。
3. 設備にかかるコストや施工責任の所在が明確になること。

などがあり、これに加えて、地元経済の活性化、地元企業の育成の観点からも、当該事業が分離発注方式で執行される意義は誠に大きなものがあります。

つきましては、下記内容について那覇市議会の決議を賜りますよう陳情申し上げます。

記

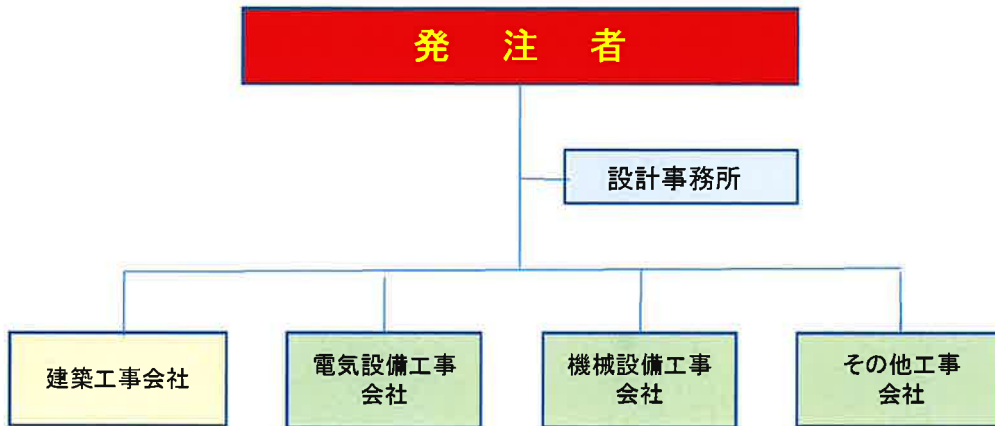
陳情の内容： 新那覇市立病院(仮称)建設工事の分離発注を求める議会決議

陳情の趣旨： 上記文面のとおり

決議送付先： 独立行政法人那覇市立病院理事長、那覇市長

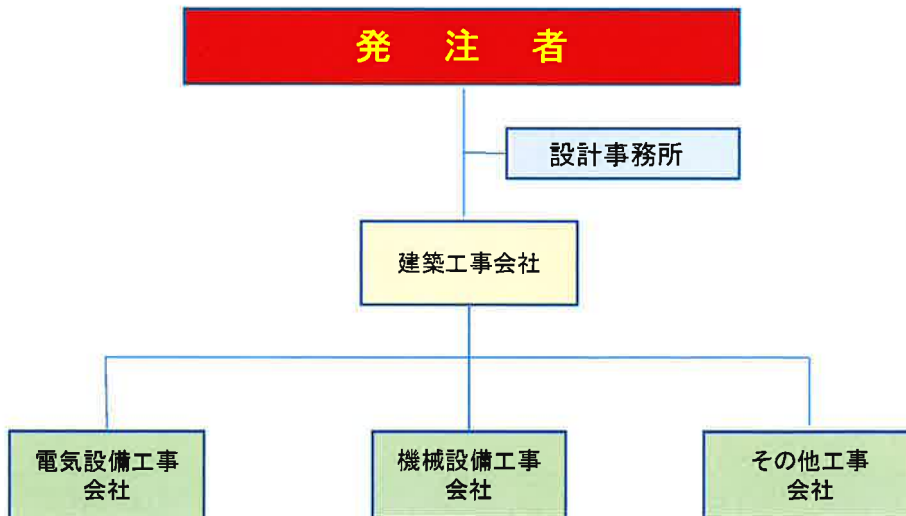
以上

○分離発注方式



発注者と設備工事会社が直接契約する方式で、品質とコストの透明性が確保できます。

○一括発注方式



発注者が建築工事会社と一括して契約する方式で設備会社は下請となる。
このため、コスト配分が不明瞭となり、設備への要望が直接伝わりません。